

報告タイトル

2021年8月17日における中国の軍事行動
- アリソンの分析モデルからの解釈 -
China's Military Action on August 17, 2021
: Interpretation from Allison's analytical model

氏名（所属）

相田 守輝（筑波大学大学院）
AITA Moriki (University of Tsukuba)

要旨（800字程度）

台湾周辺で軍事的プレゼンスを高める人民解放軍（PLA）の動きは露骨な拡張主義に従い領域紛争を深刻化させ、周辺諸国にとって強い警戒の対象となっている。

本報告では、2021年8月17日に台湾周辺で中国がとった軍事行動に着目し、G.アリソンが提唱したキューバ危機の3つの分析モデルを適用しながら、中国の軍事行動の実体について解釈を試みる。

第1節では2021年8月17日に起こった中国の軍事行動、すなわち①多数のPLA機による台湾防空識別区（ADIZ）進入、②PLA陸軍、海兵隊によって行われた水陸両用作戦演習、③PLA東部戦区によって発出された「権威発布」の事実関係を概観し、また分析枠組とするアリソンの分析モデルを整理する。

第2節ではアリソン第1モデル（The Rational Actors：合理的アクター）を用いれば、中国は核心的利益である「台湾」を失わないために、武力行使も辞さない「パワー」を用いた姿勢を見せつけたと解釈できる。しかしながら、上述の①台湾ADIZ進入と②水陸両用作戦演習の各部隊の動きを細かく見ていけば、それぞれの軍事行動が連動しているとは言い難い状況であった。

従って、第3節では第2モデル（Organizational Behavior：組織行動）を用いて細かく分析を行った。その結果、PLAの陸海空それぞれの軍種が独自の訓練や実任務を行っていたことが明らかとなった。さらに、中央軍事委員会（CMC）、PLA東部戦区、外交部それぞれの組織が、39年前に米国と交わした「八・一七コミュニケ」の記念日にあわせて、大規模な軍事演習を行ったかのような振る舞いをしていると解釈できる。一方で、中国軍事行動が強硬になるほど逆に対中包囲網を強めてしまう結果になるのではないだろうか。

そこで第4節において、第3モデル（Governmental Politics：政府内政治）を用いたところ、当時の習近平が直面していた厳しい政治状況から、党内の駆け引きを通じて8月17日に中国が大規模な軍事演習に踏み切ることを承認していた可能性が高いとの解釈を加える。